

# 「酒は麦にて清酒を作る也」 「女ハ耳たぶへ小さキ輪を」

## 江戸後期ロシア漂流記 読み下して冊子に

江戸時代後期に石巻を出港し、日本人として初めて世界一周した千石船・若宮丸の乗組員の漂流記「魯西亜視帰話」を読み下し文にした冊子が刊行された。若宮丸を研究する市民グループ「石巻若宮丸漂流民の会」の庄司恵一さん(58)が旧仮名遣いなどを残しつつ、言葉の順序や漢字を読みやすく置き換える地道な作業を1年かけて進めた。

(田伏潤)

### 石巻の庄司さん

## 読みやすさを求め1年

若宮丸は1793年、16人の乗組員とともに江戸に向けて石巻港を出港したが、嵐にあつてアリユーシヤン列島に漂着。乗組員たちはロシアを横断し、帰国を望んだ4人がロシアの船で大西洋、太平洋を航海、遭難から11年後に長崎にたどり着いた。視帰話は、帰国した乗組員が語った体験談がまとめられている。

今回、刊行された冊子では、乗組員が東シベリアのイルクーツクで体験したことを次のように紹介している。

①「酒は麦にて清酒を作る也、風味殊の外辛し、酔いも甚だつよし」②「女ハ高下に

## 宮城文化



完成した「魯西亜視帰話」を手にする庄司恵一さん。石巻市図書館

も貴賤にも限らず耳たぶへ小さキ輪をはめる也」③「茶を呑む時は、茶の中へ牛乳をさして呑む也」。

④はウオツカ、⑤はピアス、⑥はミルクティーに関する記述とみられ、ほかにも当時の外国の様子が数多く紹介されている。ちなみにイルクーツクの地名は「イルカウツカ」と表現。庄司さんは「固有名詞も含めて彼らが聞いたまま、見たままの素直な表現で語られている」という。

庄司さんは石巻市図書館に勤務する。日々の仕事が終わってから、北海道大付属図書館が所蔵するマイクロフィルムのコピーを閲覧し、読み下しを進めた。専門は文献史学。これまでも古文書を書き写す作業は行っていたが、読み下し文にしたのは初めて。「読み取れない部分も多く、夜中に目が覚めて解釈を思いつくこともあった」と振り返る。

乗組員による漂流記は視帰話以外にも複数あるが、分かりやすい読み下し文にされたのは初めてとみられ、貴重な資料がより身近になった。

B5判28頁で1部500円。問い合わせは、郵便で漂流民の会事務局長の大島幹雄さん(〒2336・0052横

浜市金沢区富岡西2の21の23)へ。